

三重縣立津高等女學校の歌

鳥居 忱・詞
多 梅雅・曲

一、 五十鈴の川の川上に
しづまり給う神垣や
わがすめ國のすめらぎの
御祖の神のみやす所

八、 手にとる鏡磨かずば
かざりの真玉みがかずば
人に知られぬ心さえ
光うせてやくもるらむ

二、 しなひの長き藤方の
村の奥津城誰ならむ
忠義の道にとなえたる
人を祭れる処ぞと

九、 父のきもののはり仕事
母のたすけの水仕事
はらから共に睦まじく
身をすこやかにつとめなむ

三、 いさをも高き山室の
やまのおくつ城跡ならむ
学びの道につくしたる
人をまつれる処ぞと

十、 女の道を収めつゝ
女の芸をつとめつゝ
後に幸ある身の運を
開くは今の時ぞかし

四、 安濃津の城はその昔
心雄々しき手弱女が
つまの武士たすけつゝ
敵をふせぎし城ぞとよ

十一、 鶴舞あそぶ千とせ山
通う朝に仰ぎつゝ
亀むれ遊ぶ岩田川
帰る夕に影うつす

五、 伊勢は津でもつ俚謡も
昔よりけにいやましに
さかえに栄え富にとみ
かまどの煙にぎはしや

十二、 阿漕の浦にひく網の
めでたき御代のためしには
鶴と亀との齡をば
ひとつにあわせ祝うなり

六、 日出づる国の国の親
伊勢の阿濃津に長光に
神の御裔のすめらぎを
君と仰ぐぞありがたき

合唱
三重のさくらの色もよく
学びの庭のかぐわしや

七、 いともかしこや磨かずば
玉も鏡もなにかせむ
学びの道もかくこそと
きさいの宝の大御歌

